

令和2年10月1日

令和2年度 学校関係者評価報告書

学校法人南京都学園 京都動物専門学校 学校関係者評価委員会は、「令和元年度 自己点検・評価報告書」に基づき、令和2年度の学校関係者評価を実施し、以下にこれを報告いたします。

開催日時：令和2年9月25日（金）10：30～12：00

場 所：京都動物専門学校 1号館2階201教室

参加委員：中嶋慶喜（ドッグサロン・レーヴ代表）、塩見孔爾（京都廣学館高等学校教育企画室室長）、中本敦史（学校法人南京都学園法人本部企画室次長）、平尾克英（京都福祉専門学校副校長）

教職員：木原茂弘（校長）、大塚浩也（副校長）、森岡俊樹（事務長）、寺岡朋美（教務部長）、中井澄子（進路主任）、島田真奈美（入試広報主任）

欠 席：吉田龍一郎（吉田家畜動物病院院長）

評価項目と学校関係者評価・意見

評価項目	説明及び評価・意見	対応等
1 学校運営	<p>(説明)</p> <p>令和3年度運営計画について</p> <ul style="list-style-type: none">・新型コロナウイルス対策・クラス編成に伴う講師補充、時間割、教室の運用方法 <p>令和4年度運営計画について</p> <ul style="list-style-type: none">・愛玩動物看護師養成校として3年制の実施・学科、コース、専攻の見直し・募集定員、入試方法の見直し <p>(意見・評価)</p> <p>募集定員・入試方法変更に関して、動物看護は変更を実施しても集まると思うが、トリマーに関してはこれまでの状況から厳しいことが予想できる。</p>	<p>今年度、新型コロナウイルス感染症の影響は様々な所で影響をおよぼしている。幸い募集に関しては、ありがたいことに多くの志願者が予想さる。</p> <p>しかし、この状況が続くとも限らない。</p> <p>また、愛玩動物看護師養成校となると定員数の規定も厳しいものとなる。</p> <p>教育の質・経営的観点の総合判断によって募集定員を定め、入試方法も考えていきたい。</p>

<p>2 教育活動 (カリキュラム編成)</p>	<p>(説明) 愛玩動物看護師養成校となる と、カリキュラムの変更が必要 になる。 令和3年度中には内容が決まる ようである。</p> <p>(評価・意見) 具体的なことが決まっていない ので、現状なにもできないのが 不安であり、心配である。</p>	<p>令和3年度は現状のカリキュ ラムの実施であるが、令和4 年度からは3年制となりカリ キュラムも変更となる。令和3 年度中には手続きを終える必 要があるが、まだ何も決まっ ていない状況である。 情報収集に努め、準備を行っ ていく。</p>
<p>3 学修成果 (教育指導) (資格)</p>	<p>(説明) 一般社団法人全国キャットク ラブに加盟し「キャットマイス ター」の資格導入を検討。</p> <p>一般財団法人日本動物理学療 法協会に加盟し「動物理学療法 士」の資格導入を検討。</p> <p>(評価・意見) 今年度も動物看護師統一認定 機構の試験は実施されるのか。</p>	<p>現状では、動物看護師統一認 定機構の試験は実施される予 定である。 今後の実施の有無や機構の存 続、組織の在り方について も、明確な情報はない。 決定次第、対応していかなけ ればならない。</p>
<p>4 生徒支援 (インターンシップ) (高等教育修学支援新 制度)</p>	<p>(説明) インターンシップの捉え方を、 学校と企業の双方が共通認識す る必要がある。今後、動物看護 のカリキュラムは、病院実習を 「学び」としての位置づけとさ れる。 就職としての要素は、勿論ある が双方がよく理解した上で実施 されなければならないと思う。 獣医師会を通して協力をお願い をしたい。</p> <p>(評価・意見) 動物看護師が国家資格となり、</p>	<p>インターンシップは、生徒には 大きな経験・勉強になり、本校 の教育課程においても重要な部 分である。だからこそ、学校と 企業の双方が納得して実施する 為に、目的・方法等をしっかりと 定め、企業側に説明し理解を 得て、協力していただけるよう 努める。</p>

	<p>動物病院（獣医師）との連携はより強くなる。獣医師会としても協力はさせてもらおうと思う。獣医師会の広報誌に貴校の紹介を掲載してもらうことで、多くの動物病院の協力も得られると思う。</p> <p>（説明） 今年度の高等教育修学支援新制度対象者は26名。 新型コロナウイルスの影響で追加対象となった生徒もいる。</p>	<p>対象校から外れると、生徒への支援への影響もあるが、募集にも大きな影響が考えられる。対象校として支援を受けられる環境を整えることに努める。継続のためにも定員確保が絶対である。</p> <p>機関要件申請（対象校継続申請）は毎年実施されるため、要件をクリア出来るように努める。</p>
<p>5 教育環境 （施設設備） （ICT活用）</p>	<p>（説明） 3号館（仮称）の新築を行う。完成予定は4月下旬～5月上旬 施設内容は主に動物看護実習室・多目的ホール・セルフトリミングルームである。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響下において、今後は、さらにICT活用が必要となるため、対応していかななくてはならない。</p>	<p>3号館の2階を看護実習室とするが、国家資格化・愛玩動物看護師養成校としての施設・設備の基準が未定の状況である。基準が決まり次第、滞ることなく対応していきたい。</p> <p>対面授業とオンライン（WEB）授業の併用と有効活用方法を考える。 それに伴い、機器および環境整備にも努める。</p>
<p>6 生徒の受入れ募集</p>	<p>（説明） 今年度の募集状況は、現状定員を大きく上回る見込みである。新型コロナウイルス感染症の影響が心配されたが、悪影響</p>	<p>愛玩動物看護師法の影響も大きい。また、6月から対面のオープンキャンパスが実施できた。それまではWEBでのオープンキ</p>

	<p>はなかった。</p> <p>(評価・意見) 要因は何だと思われますか？</p>	<p>キャンパスのみの実施であった。結果的にWEBからのエントリー数は多く、WEBでの参加者に対し、個々に対応したことが良かったのではないと思われる。6月以降も対面とWEBの併用を継続実施した。SNS(特にライン)による個別対応が有効に働いた。</p> <p>しかし、新型コロナウイルス感染症がどのような影響を及ぼしたかは、今後分析する必要がある。分析を踏まえて、今後の募集活動を考えていく。</p>
<p>7 社会貢献・地域貢献</p>	<p>(説明)</p> <p>動物看護師コースの授業の一環として、ボランティア活動を実施。</p> <p>生徒がグッズを制作し、動物関連イベントやぐーDOG祭で販売し得た利益で寄贈品を購入し、京都動物愛護センターへ寄贈した。</p>	<p>大変好評で、多くの方に活動を知ってもらえた。人・地域・社会との繋がりを体現でき、生徒及び学校にとって非常に良い機会であった。</p> <p>課題としては、一つの授業ではなく、生徒全員・学校全体として社会貢献活動ができる形を作り上げなければならない。</p>

以上